

住民の命と 生活を守り抜く 砂防事業

～富士川水系富士川流域における
砂防事業の効果～



大武川第四砂防堰堤（釜無川支川大武川）



最新の土砂災害
概要はこちら

※令和元年11月15日時点（速報版）

富士川水系直轄砂防事業の効果

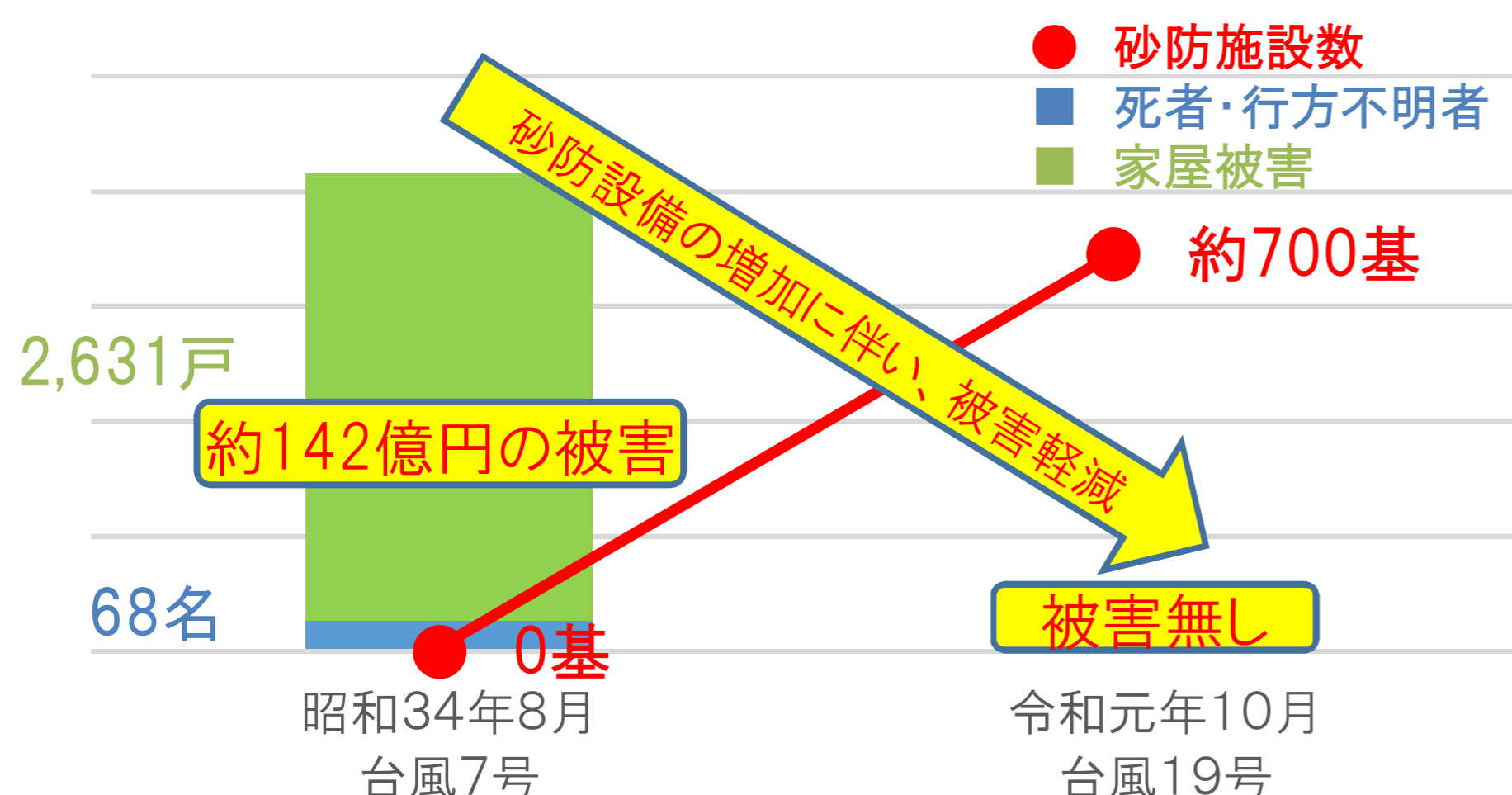
- 多数の死者・行方不明者をもたらした昭和34年8月の台風による土砂災害を契機として、富士川砂防事務所では、これまで管内全体で約**700基**の砂防施設を整備。
- 令和元年の台風第19号では、昭和34年災害を上回る526mm/日もの日雨量を記録。
- 昭和34年災では68名の死者・行方不明者、2,600戸を超す家屋被害が発生したが、その後の着実な砂防堰堤整備により、土砂・洪水氾濫を防止

昭和34年災における被害状況等と今回の比較

日雨量の比較



被害状況の比較



土砂・流木の捕捉状況

S34災 山梨県北杜市被災状況（旧武川村）



台風第19号豪雨に伴う流出土砂の捕捉状況



※砂防設備整備数は富士川流域の直轄分の集計 ※被害状況は長野県（富士見町）、山梨県（韮崎市、旧白州町、早川町、旧武川村）の集計（昭和34年災害誌より転載）
※日雨量は富士川流域（富士川砂防事務所管内の雨量観測所）での最大の雨量観測所の値（S34：昭和34年災害誌、今回：七面山） ※被害額は長野県（富士見町）、山梨県（韮崎市、旧白州町、早川町、旧芦安村、旧武川村）の家屋被害を現在価値に換算したもの